

11 今後の課題

(1) インターネット回線速度

インターネットを情報公開の媒体として利用するシステム構築を進めてきているが、遺跡や遺構、遺物の写真・実測図などを配信する上で、128kbpsのインターネット回線が障害となる可能性がある。

画像データ量を減らし、一度に送り出す総量を制限することで対処しているが、今後予想される動画配信などには現況では難しいと考える。

また、ADSLやCATV、FTTHなどのブロードバンドの普及により、一般家庭が利用する回線がこれまで以上に高速化していく中、現在の回線がボトルネックとなることも予想される。

今後、安価で高速なサービスが提供された場合、見直しを行う必要がある。

(2) セキュリティ確保

常時外部との接続を行っているため、不正な進入やウイルスなどの攻撃から内部を保護する必要がある。ウイルスソフトの更新はもとより、ハードウェア・ソフトウェアのメンテナンスなど、万全の体制でセキュリティの確保に当たってきたい。

(3) データベースについて

膨大なデータの登録を計画しており、そのための体制作りが必要である。発掘調査報告書のPDF化によるインターネット配信やCD-R配布などの要求もあり、人員の確保、効率的な作業方法の検討などが必要である。

(4) ホームページ更新について

上野原縄文の森開園前日からオープニング行事期間までの計4日間のホームページアクセス数は1,600件を超え、インターネットによる情報発信の有益性と必要性を実感した。同時に、ホームページへのリピーター確保のための情報更新の重要さと責任の重さを痛感した。

現在、最も更新頻度の高いコンテンツは「かごしま考古ガイド」であり、週に1回のペースで更新を行っている。(本コンテンツは平成15年2月の段階で46回分のページを作成終了している。今後は、各テーマごとに職員で見直しを進めながら、可能な限り順次公開していく予定である。)

更新を頻繁に行う場合、ページレイアウトや各ページ間リンクの煩雑さなどに注意する必要がある。利用者にとって使い勝手の良い、アクセスしやすいサイトを作成するために、情報の更新とともにレイアウトやメニューなどのインターフェースにも留意していきたい。

また、現在は多少古いバージョンのWWWブラウザでも正しく表示させることを念頭に置いているため、動的なページは作成していない。今後は、新しいバージョンのWWWブラウザの普及をみながら、魅力のあるホームページを作成していきたい。

(5) 埋蔵文化財情報システムの管理

埋蔵文化財情報管理システムやその他の情報機器は南の縄文調査室が一括して管理を行っているが、当システムは、機器やネットワークのメンテナンスに加え、情報更新のための考古学的な知識・技能など、幅広い人材を必要とする。システムは平成14年度にハードウェアの整備が終わったばかりであり、十分な情報提供を行うにはまだまだデータの蓄積が不十分である。当センターでは各種プロジェクトを組み、必要に応じて検討会を開いているが、多角的な視野からシステムを構築していくことが今後も重要だと考える。また、一般からの意見をシステムに反映させていくことも不可欠である。

12 おわりに

当センターでは平成14年度の運営方針を、「埋蔵文化財の保護事業(調査、整理・報告書作成、研究、保管等)や普及・啓発事業(研修講座開催等)を実施することにより、文化財に対する県民の正しい理解と認識を一層深め、郷土愛を培う拠点として内容の充実を図る。」としている。すなわち、埋蔵文化財に関する情報発信の拠点として、効果的で質の高い「県民へのサービス」を積極的に進めていく必要があるといえる。

上野原縄文の森は開園したばかりであり、県民からの期待も大きく、それだけに要望も多い。何が求められているのかを常に考慮しつつ、十分な情報公開、そして魅力のあるデジタルコンテンツ作成に努めていきたい。